

わたずん ニュース

I T A M I S H I K O N C H U K A N N E W S

第42号 2024/2

特集 赤外線自動撮影カメラの前の生きものたち



30% 2023/08/03 06:12:07 24°C 75°F fankYs



特集

せきがいせんじどうさつえい 赤外線自動撮影カメラ

昆陽池公園内に赤外線自動撮影カメラをしかけてみると、様々な生きものの姿が

タヌキの目撃情報から始めた哺乳類調査



伊丹市内で初めて撮影されたタヌキの姿（2014年10月17日 撮影：井上保喜氏）

当館では、伊丹市内の生きものの調査を、昆陽池公園を中心に市内各所で行っています。しかし、哺乳類の生息情報はこれまで情報の蓄積があまりありませんでした。2014年から2016年にかけて、市民の方々から昆陽池公園において複数のタヌキの目撃情報の提供がありました。これをうけ、当館では赤外線自動撮影カメラを設置し、より詳しい哺乳類の調査を開始することにしました。

赤外線自動撮影カメラは、赤外線を照射し、それによって動物の体温を感知することで、カメラの前にやってきた動物たちを昼夜を問わず自動で撮影することができます。静止画と動画を選んで撮影することができ、画像は昼間にはカラーで得られますが、夜間は赤外線の反射をセンサーで受像するために白黒で得られます。このカメラを使えば、昼間に探し回ってもみつからないような、警戒心の強い動物たちを観察することができます。

赤外線自動撮影カメラを初めて設置したのは2017年3月22日です。そして、その日の夜にタヌキが撮影されました。当初はそ



哺乳類調査のため、赤外線自動撮影カメラを設置した

これまで簡単にタヌキの姿をとらえることができると思っていなかったのですが、正直に言っておどろきました。しかし、その後も赤外線自動撮影カメラを用いた調査をした結果、何度もタヌキを観察することに成功しただけでなく、キツネやアナグマなどの他の哺乳類や、アオサギやフクロウなどの鳥類も次々に撮影することができました。当初は静止画で撮影していましたが、動画の設定に変更してみると、静止画では得られなかった生きものの行動がわかるようになりました。



初めてカメラを設置した日の夜に撮影されたタヌキ（2017年3月23日2時31分）

赤外線自動撮影カメラが生きものを観察するための強力な道具となることがわかったので、昆陽池公園内でこのカメラを使った調査を現在も継続しています。当館の調査では現在、当館の周辺に1台、昆陽池の中央にある“野鳥の島”に1台の計2台を設置しています。また、昆陽池公園野鳥観察グループ「チームK」が主に鳥類を調査するために設置したカメラの撮影データも提供してもらい、相互で情報を共有しながら調査をすすめています。

昆陽池公園では、上記の方法で、これまでに生きものを2万例以上も撮影することができました。

その中で最も多く撮影された生きものはアオサギです。撮影された画像を確認する作業のたび、「またアオサギか」と思うこともあります。しかし、頻りに撮影される生きものは、食事や排泄のようすなど、より詳しくらしづりが明らかになっていきます。



魚をくわえるアオサギ

※ 赤外線自動撮影カメラを用いた調査は、設置場所の地権者や各種法令に基づく許可の取得、調査対象の動物になるべく影響を与えないための配慮など、注意すべき点があります。初心者は実際に調査をしている人の指導を受けながらはじめることが望ましいです。

まえ いの前の生きものたち

撮影されました。普段見ることのできない生きものたちを紹介します。

10種の哺乳類を確認

昆陽池公園における赤外線自動撮影カメラを用いた調査で、2017年3月から2024年1月までに撮影された哺乳類はキツネ、タヌキ、イヌ、アライグマ、チョウセンイタチ、アナグマ、ハクビシン、イエネコ、ネズミ科の一種、ヌートリアの10種です。伊丹市内にこれほど多様な哺乳類が生息しているとは、思ってもいませんでした。しかし、コウモリのように飛び回る種や、モグラのように土の中にいるもの、また小さすぎるものはこのカメラでは撮影することは難しいようです。また、ネズミのようによく似た種が複数いるような仲間は、得られた画像を観察するだけでは種名を

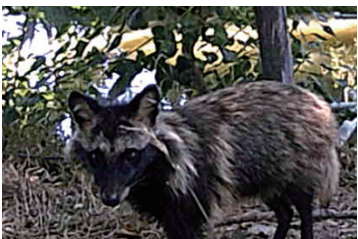
確定するのが難しいこともあります。

生きものたちはカメラの前を素通りするものもいれば、カメラ目線でカメラに近寄ってくるものもいて、カメラの存在に気がつくことがあるようです。

哺乳類だけでなく、鳥類も多く撮影されています。特に、タシギやクイナのように、暗い茂みで活動することを好み、人間が野外を歩いて探索するような調査方法では見つけることが難しい種も撮影することに成功しました。



キツネ



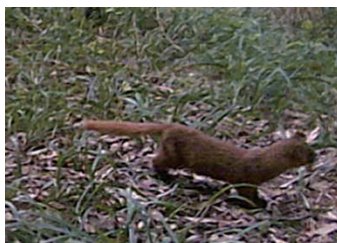
タヌキ



イヌ



アライグマ



チョウセンイタチ



アナグマ



ハクビシン



イエネコ



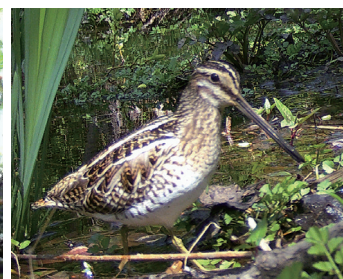
ヌートリア



ネズミ科の一種



フクロウ



タシギ



クイナ



オオタカ

カメラがとらえたおどろきの瞬間

これまで撮影した中から、特におどろきの瞬間を、動画から切り出した静止画で紹介します。しかし、おどろきの瞬間といってもタヌキとキツネがヌートリアをくわえた瞬間が撮影されていなかっ



ヌートリアをくわえるタヌキ。タヌキがヌートリアを捕食するかどうかを知りたかったが、この動画ではその瞬間は撮影されていなかった



ヌートリアの死骸（矢印の位置）を食べる家族とみられるタヌキたち。画面の外にいる1匹をふくめて4匹いた。ヌートリアは2日間ほどで食べられてしまった



アライグマの集団。総勢7匹も写っていて、数の多さにおどろいた



逆立ちするヌートリア。水に頭を突っ込み、逆立ち状態で後足をバタバタさせているのがおもしろかった

たり、鉢合わせた後どうなったのかが撮影されていなかったりと、知りたい情報が全て得られないことも少なくないのが歯がゆいところ。今後もこの調査には試行錯誤が必要です。（前畑真実）



カワウをくわえ、ひきずりながら歩くタヌキ。この地点にはカワウが多く生息している



ヌートリアをくわえて走るキツネ（矢印の位置）。ヌートリアをくわえる瞬間は撮影されていない



鉢合わせたキツネ（赤矢印）とタヌキ（白矢印）。お互いに唸り声をあげながら闘争していた。キツネとタヌキが鉢合わせたようすが撮影されたのはこの例が初めてで、とてもおどろき興奮した



ミソゴイ。ミソゴイは茂みに潜んでじっとしていることが多いため、人が歩きまわる調査方法ではなかなかみつからない

むしムシ虫眼鏡

Vol. 27 アサギマダラ

アサギマダラは春から夏は北へ、秋から冬は南へ移動する渡りを
するチョウとして有名です。当館がある伊丹市の昆陽池公園には、
5月中下旬頃と10月上中旬頃に移動途中で立ち寄ります。オスは
花へ吸蜜に訪れますが、メスはほとんどやって来ないのです。しか
しここ数年は、秋になると別のチョウの食草として栽培しているリュ
ウキュウガシワやツルモウリンカに産卵に来るようになりました。ま
た本来の食草としてピオトープに植栽したキジョランにも産卵が見
られ、幼虫も発生しています。

淡い水色（あさぎ色）と赤褐色の斑紋のある大きな翅で、ゆる
やかに飛翔する姿はとても優雅で目立ちます。雌雄の見分けは容易
で、オスの後翅には黒い斑紋（性標）があり、メスにはありません。
アサギマダラの渡りの飛行ルートや長距離移動を調べるために、
全国各地でマーキング調査が行われています。和歌山県から香港
まで約2,500km移動したという大記録があります。（角正美雪）



秋、当館のうらのフジバカマに訪花したオス

＜アサギマダラ＞

学名：*Parantica sita*

分類：チョウ目タテハチョウ科

開長：80-100 mm

亜熱帯の温室から

Vol. 27 チリメンナガボソウ

チョウ温室に咲く花の中でも花冠がひときわ小さく、紫色の花を
ぼつりぼつりと咲かせるチリメンナガボソウの存在に気づいている方
は少ないかも知れません。チョウに人気のランタナやタイワンレンギョ
ウなどと同じクマツヅラ科の仲間、漢字で書くと縮緬長穂草です。葉っ
ぱがちりめんのようにシワシワ
で、ツルのような細長い花序に
小さな花が下から数個づつ咲
き上がり穂を伸ばします。沖縄
本島や八重山列島の林縁や道
端などにたくさん生育している、
熱帯アメリカ原産の帰化植物で
す。樹木ではないのですが、多
年草で年を経ると茎が木化し
背丈も2mほどになり、花序も
長いものだと60cmを越えま
す。一つの花は直径7mmほ



チリメンナガボソウで吸蜜するキタキチョウ

どの筒状、花にとまって口吻を伸ばせばすぐに蜜まで届くようです。
温室に入り園路を歩きながらチリメンナガボソウを探してみましょう。



吸蜜するリュウキュウアサギマダラ

小さなクロテンシロチョウ、キタキ
チョウはもちろん、オオゴマダラや
リュウキュウアサギマダラ、ジャコウ
アゲハなども吸蜜していることがあ
ります。小さく目立たないかも知れ
ませんが一年中咲いており、温室
のチョウたちに蜜を提供する縁の
下の力持ちです。（野本康太）

＜チリメンナガボソウ＞

学名：*Stachytarpheta dichotoma*

分類：クマツヅラ科

「さいきんの

日本鱗翅学会第69回大会を伊丹で開催

チョウやガを研究対象とする学術団体である、日本鱗翅(りんし)学会の第69回大会を、当館との共催で開催しました。会場の東りいたみホールには、全国から大学などの研究者や学生、アマチュア研究者など合わせておよそ120人が集まり、研究成果の発表や議論、公開シンポジウム「鱗翅目の生態学と行動学」などが行われました。発表の

中には当館のチョウ温室を用いた研究や、当館関わった調査や研究もありました。また、高校生の部活動や小学生も研究者の方々と肩を並べて発表していたのが印象的でした。当館も、所蔵する希少な昆虫



東りいたみホール入口の学会ポスター



小集会のようす

標本の展示を行い、終始和気あいあいとした雰囲気の中、研究者の方々と交流を深め、最新の情報を学ぶ貴重な機会となりました。

(坂本 昇)

誰かに伝えたい「身近な自然絵はがき」2023 結果発表!

全国から319点の作品が集まり、審査の結果、伊丹ロータリークラブ賞・TOYO TIRE賞・身近な自然賞・伊丹市内郵便局賞・伊丹市昆虫館賞・ことば蔵賞が決定し、11月3日に表彰セレモニーを行いました。審査ポイントは、「身近な自然が生き生き、のびのびと表現されていること」。応募いただいた全作品は、ことば蔵および当館にて展示させていただきました。

今回も素敵な作品が集まりました。次回もお楽しみに!

(西 史夏)



受賞者のみなさんとの記念撮影



飼育室から

ツヤアオカメムシの大発生

ツヤアオカメムシ（以下、ツヤアオと略す）は体長 15 mm 内外で、その名のとおりつやのある緑色の体色が特徴です。南方に多い傾向はあるものの、国内に広く分布し、「どこにでもいる緑色のカメムシ」と言えます。



ツヤアオカメムシ

そんなツヤアオですが、2023 年の秋は異変がありました。9 月の下旬から 11 月半ばにかけて、関西を中心とした西日本の平野部で、ツヤアオが突如として大量発生しました。同時に、X (旧 Twitter) などの SNS でも、街灯やコンビニなどの夜間の照明の周辺におびただしい数が集まっているようですが、写真や動画つきで多くの人に投稿されていました。ツヤアオはこれまでも越冬前の秋ごろになると市街地でもちらほらと見られていましたが、2023 年の発生量は筆者の知る限り過去に例がありません。

ツヤアオの成虫は広食性で、さまざまな植物から吸汁して活動することができます。いっぽう、幼虫はスギやヒノキの実を中心とした針葉樹を食べなければ育つことができません。夏に山あいの

スギ・ヒノキ林で育った幼虫は、秋に新成虫となってから四方八方へと飛翔分散します。なんらかの要因により、2023 年の秋は過去にないほどの膨大な数になるまでツヤアオが繁殖し、都市部を含めた広範な地域に飛来したと考えられます。また、ツヤアオは夜間に光に誘引される習性があります。繁華街や集合住宅の照明などに集中し、人の目にふれる機会が多くなったようです。ツヤアオに関するくわしい解説や対処方法についての記事を、当館のブログに掲載したので (QR コード参照)、こちらもぜひお読みくださいませ。 (長島聖大)



ツヤアオカメムシの解説記事 QR コード



夜間に照明の下の手すりに集まったツヤアオカメムシ

希少種、タガメとゲンゴロウ

タガメとゲンゴロウは、どちらも大型の水生昆虫で、水田や農業用水路、池沼などのいわゆる里山環境に生息しています。過去、身近にいた水生昆虫の代表格であり、現在でも人気があります。しかしながら両種の生息環境は開発、農業の衰退、水質汚染、外来生物の増加などの理由により消失しつつあります。

このためタガメは 2020 年に、ゲンゴロウは 2023 年に、それぞれ種の保存法に基づく特定第二種国内希少野生動植物種に指定されました。特定第二種制度では、指定種の商業目的での採集

や売買を規制していますが、個人的もしくは調査研究のための採集は規制対象外としています。

両種の特定第二種指定を普及啓発するため、環境省は紹介パネルを製作しました。この紹介パネルを、2023 年 12 月 14 日から 2024 年 2 月 12 日まで、当館生態展示室のタガメおよびゲンゴロウ水槽前に掲出しました。当館でも、この両種については生体展示を継続したいと考えています。

(田中良尚)



タガメ



ゲンゴロウ



タガメ (左) とゲンゴロウ (右) の水槽



環境省の紹介パネル

伊丹市昆虫館友の会が20周年

伊丹市昆虫館友の会は、伊丹市昆虫館を積極的に利用して自然と親しみ、学習しようとする人々により組織され、会員相互の親睦を深め、昆虫館と連携しつつ、自然科学の発展に寄与することを目的として活動するグループです。この友の会が、今年1月に正式発足から20年を迎えることができました。2004年の第1回の総会時には180名ほどの会員でしたが、2023年度には340名ほどの会員のいるグループへと成長し、継続しています。

友の会では、当館の行事とは異なる内容の、会員だけが参加できる行事を行ってきました。会員の中から選ばれた役員がおり、友の会役員と当館の学芸員が相談して行事の内容を決め、当日の運営も一緒に行ないます。そのようにして、昆虫観察ハイキングや調査、他の博物館見学、2泊3日の昆虫採集や標本作りなどをする合宿などの行事を開催してきました。何度も行事に参加していくうちに、会員同士で親しくなったり、当館のスタッフと仲良くなったりするのも魅力です。会員として行事に参加したお子さんの中には、学生になって実習などで当館を利用する人や、同業者として当館に関わってくれるようになった人などもあります。



竹筒トラップを設置してハチを調査する観察会

僕は友の会の発足当時、事務局の担当として立ち上げから運営を担当しましたが、不安だらけの出発でした。それが多くの会員さんや役員さんに支えられて20年も続いたことは大きな喜びです。また友の会による人と人とのつながりは、当館にとってかけがえのない財産です。

友の会に入会してくださった、または関わってくださったすべての人に感謝いたします。そしてこれからも伊丹市昆虫館友の会は続きます。今後とも、友の会をよろしく願いいたします。

(坂本 昇)

防犯訓練を実施しました

去る1月16日に当館初となる防犯訓練を行いました。

通常、110番通報をしてから7分程度で警察が当館に到着します。それまで、いかに自分と来館者の命を守るかが課題です。

思わず悲鳴をあげるほどの迫真の演技で、伊丹警察署の方が凶器を持った犯人役として館内を歩き回ります。

定期的に行っている消防訓練の成果か、1回目は思うように動けなかった私たちも、2回目には警察署の方にお褒めいただくほどの行動を取ることが出来ました。

これからも、来館者の安全を守る訓練を続けていきたいと思います！

(西 史夏)



伊丹警察署が犯人役として協力

もよおしあんない

*展示・行事は、日程・内容等を変更することがあります。最新情報はウェブサイトをご確認ください。

2月

4(日) こやいけ野鳥観察会 要予約

11(日) 生物多様性講演会
「見つけて撮って調べよう!身近な自然と昆虫の世界」
講師:海野和男(昆虫写真家)

12(月祝) 海野和男のデジカメ昆虫撮影会 要予約

3月

9(土) 学芸スタッフトークショー
前畑学芸スタッフの
「昆陽池公園の哺乳類」

23(土) こやいけ昆虫観察会 要予約

企画展

1/31 ~ 5/6 伊丹の自然

プチ展示

11/1 ~ 3/25 おうちの中の害虫たち

2/14 ~ 3/4 友の会活動紹介

行事の申込方法

- ・伊丹市内に在住の方
「広報伊丹」をごらんください。
*広報伊丹へは実施日の約1ヶ月前に掲載します。
電話での問い合わせには掲載以降にご案内します。
*広報伊丹は伊丹市ウェブサイトでもご覧になれます。
- ・伊丹市外に在住の方
電話でお問い合わせください。
*講習会・観察会実施日の約1ヶ月~2週間前までにお問い合わせください。

申し込むには...

- ・Eメール(PDF添付を含むPCメールとのやりとりができるアドレス)、FAXおよび往復はがきで受け付けします。①行事の名前、②申込者全員(同伴含む)の氏名(ふりがな)、③年齢(学年)、④住所、電話番号を記入し、受付期間内にお送りください。申込多数の場合は抽選になります。
- ・小学生以下は保護者同伴での申し込みをお願いします
- ・FAXの宛先番号 072-785-2306
- ・Eメールアドレス itakon@itakon.com
(メールを送って3日以内に受付の返信がない場合は、お手数ですが再度ご連絡ください)
- ・往復はがきの宛先住所
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 伊丹市昆虫館

編集スタッフより

今年は昆陽池公園の哺乳類たちを生で観察したいな〜。(のもと)

小さな虫が見えなくなってきました。遠近両用メガネを作るお年頃になってしまったか・・・(ながしま)

次回(第43号)発行は、2024(令和6)年7月頃の予定です。

表紙写真 昆陽池公園のキツネ(昆陽池公園野鳥観察グループ「チームK」の設置した赤外線自動撮影カメラで撮影)

いたこんニュース 第42号 Vol.21 No.2 (通巻42号)
2024(令和6)年2月発行
発行 伊丹市昆虫館
〒664-0015 伊丹市昆陽池3-1 昆陽池公園内
TEL: 072-785-3582 FAX: 072-785-2306
URL: <https://www.itakon.com/>
E-mail: itakon@itakon.com
編集 長島聖大・野本康太
デザイン原案 pico pictures
印刷 株式会社ケーエスアイ